

ノーサイド 北原 巖 男

U・中国・韓国など諸外国とたたかぬ外交を展開、国益の確保・必要な支援獲得に邁進しています。

しかし、国づくりは道半ば。

資源依存経済からの脱却を目指すも未だ自国産業は育たず、日本とは真逆に人口増加を続ける若者たちの雇用問題は深刻です。同国政府は、多くの若者を韓国・英国・オーストラリア等へ出稼ぎに派遣。更にカナダ・ニュージーランドそして日本にも受け入れを要請しています。

月、東ティモールを訪問し、ユウンダンガス田は枯渇は未定。日本としては、ア造ることにしたものです。港を完成させていきました。

た際に、技能実習生として来日する予定の皆さんにもお会いしました。日本語で自己紹介する希望に満ちながらも不安を隠せない姿を目の当たりにするとき、彼らに「石油基金」の食いつぶしが懸念されます。このため、アセアン加盟を先取りする支援やアセアン関係会議等への招聘を積極的に行うことが重要と考えます。

来日する予定の皆さんにもお会いしました。日本語で自己紹介する希望に満ちながらも不安を隠せない姿を目の当たりにするとき、彼らに「石油基金」の食いつぶしが懸念されます。このため、アセアン加盟を先取りする支援やアセアン関係会議等への招聘を積極的に行うことが重要と考えます。

自分紹介する希望に満ちながらも不安を隠せない姿を目の当たりにするとき、彼らに「石油基金」の食いつぶしが懸念されます。このため、アセアン加盟を先取りする支援やアセアン関係会議等への招聘を積極的に行うことが重要と考えます。

アジアで一番新しい国・グローバルサウス・地政学的に極めて重要な位置にある民主国家・東ティモール。今月20日には2002年5月20日の独立回復から早や21年を迎えます。(独立回復式典が行われた土地を予め整備したのは、自衛隊PKO施設部隊であったことが懐かしく思い出されます)

ちなみに日本については、現在、技能実習生制度の廃止が検討されていますが、東ティモール初の技能実習生数名が間もなく来日予定です。パイロットケースであり、彼らの頑張りに期待すると共に日本側「監理団体」、「受け入れ機関」の皆さんの誠実な対応をお願いしたいと思います。先年國家財政を支えてきたバ

今年11月のアセアン首脳会議は、2011年から申すところ、東ティモールは常に輸入超過であり、主な輸出品は天然ガスとコーヒーに留まります。しかも、長年國家財政を支えてきたバ

今年11月のアセアン首脳会議は、2011年から申すところ、東ティモールは常に輸入超過であり、主な輸出品は天然ガスとコーヒーに留まります。しかも、長年國家財政を支えてきたバ

独立回復21年の東ティモールと

変顕著です。中国が整備し、多くの道路は、首都ティリから第2の都市パウカウまでの約120kmの道路を含め、現時点ではとても綺麗で快適でした。所

要時間もこれまで3時間半くらいかかっていたものが、今や2時間半くらいに短縮、大変驚きました。

しかしこの道路、もともと東ティモールは、ティリ港を旅客船のフェリー専用港として、新たに近郊のティバ

この東ティモールは、ティリ港を旅客船のフェリー専用港として、新たに近郊のティバ

この東ティモールは、ティリ港を旅客船のフェリー専用港として、新たに近郊のティバ

今年11月のアセアン首脳会議は、2011年から申すところ、東ティモールは常に輸入超過であり、主な輸出品は天然ガスとコーヒーに留まります。しかも、長年國家財政を支えてきたバ

今年11月のアセアン首脳会議は、2011年から申すところ、東ティモールは常に輸入超過であり、主な輸出品は天然ガスとコーヒーに留まります。しかも、長年國家財政を支えてきたバ

今年11月のアセアン首脳会議は、2011年から申すところ、東ティモールは常に輸入超過であり、主な輸出品は天然ガスとコーヒーに留まります。しかも、長年國家財政を支えてきたバ

東ティモールに続き
✳️ 印に続きます

東ティモールにおける日本の存在感はどこか薄くなつて来ているのではないか、そんな感じも致しました。

グローバルサウスの同国は、法の支配に基づく国際秩序を重視する日本と価値観を共有するアジアの民主国家・日本のポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)

オブザーバー入りを認めたCPLPサミット首脳会議

主権国・アジアやアフリカ諸国20か国から成るg77をリードしている国・資源小国日本の身近に存在するアジアの天然ガス供給国・日本が重視するアセアンの11番目の加盟国になる国・「自由で開かれたインド太平洋」実現に向けたパートナー国・中国と親しい国・民主国家の国軍(F.F.D.T.L)に対する能力構築支援や防衛大学校への留学生を受け入れている国(2023年3月時点で19名の若手士官が卒業)。小国ながら東

東ティモールは日本にとって極めて重要な国なのです。残念ながら、独立回復から今日までの21年間、東ティモールを訪問した我が国の首相は誰一人いません。このまま看過して良いはずがありません。

今日国は、独立回復記念日の翌日5月21日に行われる「国民議会」選挙の真只中に在ります。1院制。全65議席。全て比例代表制で選出。総人口約130万人、平均年齢18歳。選挙権は17歳から。東ティモールの投票率は、これまでも毎回70%以上の高率。若者も積極的に投票しており、いわゆる「シニア民主主義」ではありません。

選挙管理委員会に登録された政党の数は、なんと17。僅か130万人の人口の下で、17もの政党が完全比例代表制で議席確保を目指していることから、1党のみで65議席の過半数33議席を確保し、長期安定政権を築き、完全なシベリアン・コントロール、政治優先の下にあります。

確保し、長期安定政権を築き、完全なシベリアン・コントロール、政治優先の下にあります。元首相・元大統領。現在23議席)及びC.N.R.T.(グスマン党首。元首相・元大統領。現在21議席)の2大政党は、単独過半数獲得を目指して全力を投入しています。今回の注目点は、ルアク首相(PLP党首・元大統領・元国軍司令官。現在8議席)率いる3党連立政権(PLP・フレレリン・クイント。現在3党合計36議席)が政権を維持出来るか、或いはグスマン氏が政権を奪取し首相に返り咲くか、単独政権か、連立政権とすればその組み合わせ如何。

東ティモールの政治的主化度は、アセアン10か国よりも進んでいます。これよりの選挙は民主的に整齊と行われ、その結果について、国民はこれを受け入れて来ています。もちろん、

北原 巖男(きたはらい わお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事